

復刊のことば

二ヶ年の休刊は、本誌の長い歴史における遺憾なる間隙であつた。目の前に幼児を護る焦眉の念、将来のために幼児を正しく保育する緊要、それに与かる本誌の責務の緊急を痛感し、痛感しつゞけながら、遂に休刊の余儀なきに至つたのであつた。その二ヶ年の前半は、いよく逼る必死の當時であり、後半は激動からの立ち上りと革新へと進出との、自奮自励の今日である。本誌も亦、新たに起ち、旧くして新らしき、小なるが如くにして実は大いなる、その位置に復り附かなくてはならぬ。

しかも、本誌が己れを語る前に、先づ特記せずにはゐられないことは、休刊の間、断えず寄せられた好誼と激励と、殊に、復刊の日を促さるゝ期待と信頼とに対する、同志誌友への深き感謝である。機会ある毎に見舞つて下さつた。常以待つてゐるよ待つてゐるよと言つて下さつた。それは、本誌をして、休刊によつて却つて自己の存在意識を強からしめた位であつた。本誌は、本来わが国の保育者諸君の知己を以て任じ、好友を以て自ら楽しんで来た。創刊明治三十四年一月、思へば、久しき知己であり好友である。微力何んのお役に立つたかを知らぬ。しかし、幼児保育への一途の専念と、保育者諸君への純乎の親愛とについては、一日も自ら疑ふところがない。といふよりも、諸君の保育専念に伴ひ、親愛に浴しつゞけたといつた方がいゝかも知れない。復刊も亦その賜に他ならぬことを思ふ。感謝を以て旧知に会ひ、愛情を以て旧友に迎へられる復刊の本誌は、世の幸福者といはなければならぬ。

過去には追憶と旧足跡がある。今日には反省と新意気があり、将来には希望と新発展がある。復刊は單なる継続ではない。再生である。殊に今日のわが国において、事すべて新たならざるはない。本誌も亦反省と新意気となしに真に再生し得ず、希望と新発展とを欠いで真に復刊の実をなさない。わけでも、過去を知らず、今日に新たに生き、将来に新たに展び開く幼児達と共にあるものとして、本誌の復刊が、真に新らしき再生でなければならぬことこそは、自ら警めて怠りなきを期してゐる。が、なんといつても、四十五年の旧い足跡には、歩き慣れた足どりと、旧い、従つてのろい歩調とがぬけ切らないことを自らおそれる。願はくは、保育の志を同ふする新人新友、新風に乗つて集り来り助け、颯爽たる快步と潑刺たるステツプを以て本誌を導き、復刊をして真に新再生たり得しめられんことを。本誌のためといはず、わが国の幼児保育のために、切に希ふて己まない。